



消防団 たずね歩き

地域の連帯感

須磨区南東部の須磨第2分団のエリアは市街地のまん中、下町情緒あふれる地域でした。阪神・淡路大震災から約20年、再開された地区は災害に強い街並みとして生まれ変わりましたが、かつてのにぎわいは少し薄れたかもしれません。



そんな中、わが分団をはじめ地域の重要な取り組みは、近い将来に懸念される南海トラフ地震とその津波対策です。平均海拔15メートルほどの地域にあっては避難誘導も地域の方々との連携が不可欠なため、さまざまな被害を防ぐ訓練が定期的におこなわれております。消防署、消防団、防コミ、各自治会、そして地域住民や校区小中学生を交えての訓練も重要です。時には介護ヘルパーの方も参加し、独居の高齢者や要介護者の把握と迅速な避難誘導、また災害時に通行できない動線などを想定

した避難所への移動など、さまざまな問題を参加者で共有できる訓練は、災害への備えと視野を広げる貴重な経験です。

地域の小中学校も防災学習として例年訓練に参加しています。地域にどんな防災設備があり、一人ひとり何ができるか、いざ災害でどうするか等々、具体的な学習内容で、若い防災の担い手に心強く思います。

また、老若一体の訓練では日頃言葉をあまり交わさない間柄でも、いつの間にか協力し自然に行動しているのを見ると、さらにこれら訓練の重要性を感じます。



我々消防団員も、いざ災害となった際、いかに迅速に出動するか、いかに地域に精通しているかを問われる事もあり、日頃から小さな事柄でも地域の情報に耳を傾け、速やかに行動できるよう心がけています。

(須磨消防団 第2分団 分団長 坂井 勝)



地域に根付いた消防団を目ざしています!

～地域住民の安全・安心を確保するために～



神戸市消防局
神戸市消防団

